

調 査 の 概 要

- 1 この調査は昭和 32 年から住民基本台帳法(昭和 32 年から昭和 42 年までは住民登録法)、住民基本台帳等人口調査要綱及び同要領に基づき、区市町村長から世帯数、人口及び年齢構成を毎年1月1日現在で報告を受け集計しているものである。
- 2 調査項目は、住民基本台帳に記載されている区市町村ごとの世帯数、男女別人口、町丁(字)別及び年齢別人口である。
- 3 調査対象としての人口・世帯数とは、日本国籍を有し東京都内の区市町村に住所を定めている者として、当該区市町村の住民基本台帳に記載されている者の数及びそれらの者が構成している世帯の数である。
- 4 町丁(字)制を施行していない地域等については、通常用いている区画(自治会、町会名称等)によることとしたが、利島村、神津島村、御蔵島村及び青ヶ島村については、村を 1 つの区画とした。

利 用 上 の 注 意

- 1 統計表及び図表の数値は、特にことわり書きのない限り、各年 1 月 1 日現在の数値を示す。
- 2 統計表において「 - 」印は皆無又は該当数字のないことを、「 」印は減を、「0.00」は表章単位未満を示す。
- 3 統計表において構成比を示す数値は、四捨五入してあるため、総数と内訳の合計が一致しない場合がある。
- 4 参考表において市部、町村部の区域は現在の区域に組み替えて表章している。
- 5 町丁名の掲載順は区市町村からの報告に基づいている。

この報告書についての照会は

総務局統計部人口統計課人口動態統計係

電話 5321-1111(代)

内線 25-511・512

5388-2531 (ダイヤルイン)

結果の概要

1 1月1日現在人口及び増減率

平成20年1月1日現在における東京都の住民基本台帳による人口は12,433,235人で、前年に比べ93,976人(0.76%)の増加となった。

調査開始(昭和32年)以来の推移をみると、昭和62年までおおむね増加傾向にあったが、翌年以降は減少を続け、平成9年に増加に転じた。以後、12年連続の増加となり、平成20年は過去最高となった。

人口を男女別にみると、男性6,175,811人、女性6,257,424人となり、前年に比べ男性は44,820人(0.73%)、女性は49,156人(0.79%)増加した。性比(女性100人に対する男性の数)は98.7で前年に比べ0.1ポイント減少し、平成8年以来、男性が女性より少ない傾向が続いている。

地域別にみると、区部は8,387,659人で、前年に比べ68,818人(0.83%)増加し、12年連続の増加となった。市部は3,957,693人で、25,938人(0.66%)増加し、調査開始以来、増加を続けている。一方、町村部は87,883人で780人(0.88%)の減少となった。

(表1、表2、図1、統計表第1表、参考表第3表)

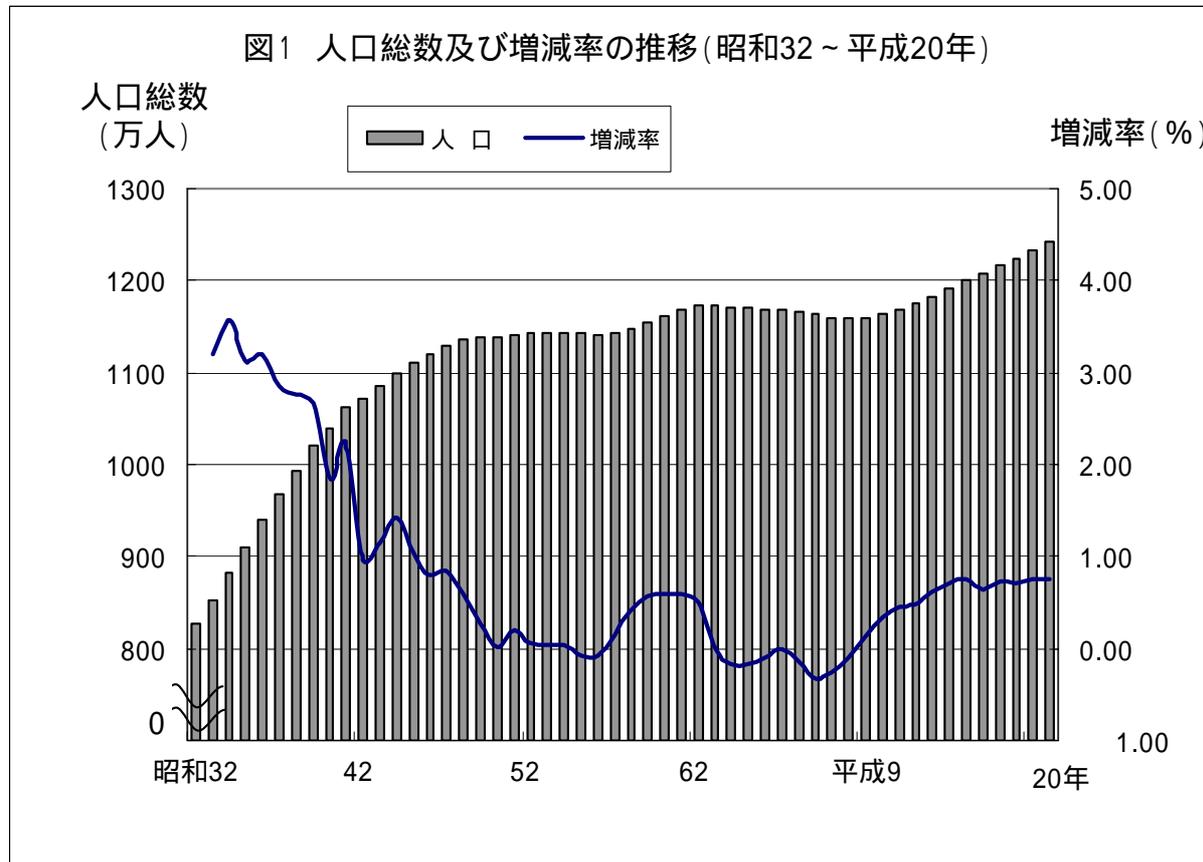


表1 人口及び男女別人口の推移（平成10～20年） 各年1月1日現在 （単位：人、％）

年次	総数			男			女			性比
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	
平成10年	11 641 308	38 666	0.33	5 808 485	14 574	0.25	5 832 823	24 092	0.41	99.6
11	11 694 934	53 626	0.46	5 832 504	24 019	0.41	5 862 430	29 607	0.51	99.5
12	11 750 351	55 417	0.47	5 857 130	24 626	0.42	5 893 221	30 791	0.53	99.4
13	11 823 029	72 678	0.62	5 892 229	35 099	0.60	5 930 800	37 579	0.64	99.3
14	11 907 350	84 321	0.71	5 932 231	40 002	0.68	5 975 119	44 319	0.75	99.3
15	11 996 211	88 861	0.75	5 973 910	41 679	0.70	6 022 301	47 182	0.79	99.2
16	12 074 598	78 387	0.65	6 008 358	34 448	0.58	6 066 240	43 939	0.73	99.0
17	12 161 029	86 431	0.72	6 047 173	38 815	0.65	6 113 856	47 616	0.78	98.9
18	12 247 024	85 995	0.71	6 087 228	40 055	0.66	6 159 796	45 940	0.75	98.8
19	12 339 259	92 235	0.75	6 130 991	43 763	0.72	6 208 268	48 472	0.79	98.8
20年	12 433 235	93 976	0.76	6 175 811	44 820	0.73	6 257 424	49 156	0.79	98.7

（注1）増減数（人）＝当該年の人口－前年の人口

（注2）増減率（％）＝（当該年の人口－前年の人口）÷前年の人口×100

表2 地域別人口の推移（平成10～20年） 各年1月1日現在 （単位：人、％）

年次	区 部			市 部			町 村 部		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成10年	7 863 301	16 478	0.21	3 685 048	22 561	0.62	92 959	373	0.40
11	7 892 267	28 966	0.37	3 709 849	24 801	0.67	92 818	141	0.15
12	7 921 476	29 209	0.37	3 736 208	26 359	0.71	92 667	151	0.16
13	7 967 602	46 126	0.58	3 762 984	26 776	0.72	92 443	224	0.24
14	8 023 202	55 600	0.70	3 792 262	29 278	0.78	91 886	557	0.60
15	8 081 959	58 757	0.73	3 822 699	30 437	0.80	91 553	333	0.36
16	8 129 801	47 842	0.59	3 854 036	31 337	0.82	90 761	792	0.87
17	8 183 907	54 106	0.67	3 887 161	33 125	0.86	89 961	800	0.88
18	8 247 810	63 903	0.78	3 910 232	23 071	0.59	88 982	979	1.09
19	8 318 841	71 031	0.86	3 931 755	21 523	0.55	88 663	319	0.36
20年	8 387 659	68 818	0.83	3 957 693	25 938	0.66	87 883	780	0.88

2 平均年齢

平均年齢は、43.19歳と前年に比べ0.22歳高くなっている。男女を比較すると、男性41.84歳、女性44.52歳と女性の方が2.68歳高くなっている。

地域別にみると町村部の46.88歳が最も高く、次いで区部43.43歳、市部42.61歳の順となっており、いずれの地域でも上昇している。

また、20年前の昭和63年からの推移をみると、すべての地域で男女共に平均年齢が上昇しており、20年間で男性は6.69歳、女性は6.90歳上昇した。

区市町村別にみると、檜原村の55.38歳が最も高く、次いで奥多摩町54.52歳、三宅村53.91歳、新島村50.97歳の順となっている。最も低いのは小笠原村の39.36歳で、次いで青ヶ島村40.11歳、稲城市40.47歳の順となっている。

(表3、表4)

表3 区市町村別平均年齢及び年齢(3区分)別人口の構成比

平成20年1月1日現在

地 域	平均年齢(歳)	年齢(3区分)別人口の構成比(%)			地 域	平均年齢(歳)	年齢(3区分)別人口の構成比(%)		
		0~14歳	15~64歳	65歳以上			0~14歳	15~64歳	65歳以上
総 数	43.19	11.84	68.78	19.38					
区 部	43.43	11.17	69.35	19.49	福 生 市	42.85	12.99	68.44	18.58
千代田区	43.64	10.92	69.33	19.75	狛 江 市	43.50	11.32	68.34	20.35
中央区	42.58	10.42	72.86	16.73	東 大 和 市	42.74	14.23	65.99	19.77
港区	42.92	10.59	72.04	17.36	清 瀬 市	44.14	13.41	63.92	22.66
新宿区	44.30	8.54	71.33	20.13	東 久 留 米 市	43.72	13.39	65.26	21.35
文京区	43.60	10.43	70.00	19.57	武 蔵 村 山 市	41.86	15.37	65.98	18.65
台東区	46.47	9.54	66.64	23.82	多 摩 市	42.76	12.32	69.64	18.04
墨田区	44.59	10.85	67.90	21.25	稲 城 市	40.47	15.73	68.86	15.41
江東区	43.53	11.62	69.48	18.90	羽 村 市	41.64	14.77	67.59	17.64
品川区	43.82	9.93	70.81	19.26	あ き る 野 市	43.59	14.48	64.35	21.17
目黒区	43.15	10.04	71.58	18.39	西 東 京 市	42.90	12.99	67.34	19.66
大田区	43.63	11.39	69.01	19.60	町 村 部	46.88	12.25	62.59	25.16
世田谷区	42.51	10.98	71.19	17.83	部 部	45.75	12.43	64.20	23.37
渋谷区	43.75	8.46	73.06	18.48	瑞 穂 町	42.43	14.66	67.12	18.21
中野区	43.63	8.62	71.94	19.44	日 の 出 町	47.45	10.68	64.41	24.91
杉並区	43.30	9.50	71.57	18.93	檜 原 村	55.38	7.45	51.47	41.07
豊島区	44.29	8.47	71.28	20.25	奥 多 摩 町	54.52	7.36	54.32	38.32
北区	45.99	9.65	66.67	23.69	島 部	49.20	11.88	59.26	28.86
荒川区	45.18	11.02	66.44	22.54	大 島 支 庁	49.48	11.66	58.70	29.64
板橋区	43.47	11.29	69.08	19.63	大 島 町	49.57	11.15	59.08	29.77
練馬区	42.35	12.92	68.30	18.78	利 島 村	48.20	9.90	65.53	24.57
足立区	43.74	12.86	66.07	21.07	新 島 村	50.97	11.66	55.94	32.39
葛飾区	44.03	12.49	66.32	21.19	神 津 島 村	47.03	14.10	60.29	25.61
江戸川区	41.09	14.81	68.17	17.01	三 宅 支 庁	52.82	7.18	58.19	34.63
市 部	42.61	13.24	67.72	19.04	三 宅 村	53.91	6.35	57.23	36.42
八王子市	42.50	13.35	67.78	18.87	御 蔵 島 村	41.53	15.77	68.10	16.13
立川市	42.39	13.10	68.27	18.63	八 丈 支 庁	50.14	12.42	57.22	30.36
武蔵野市	43.22	10.62	70.19	19.20	八 丈 町	50.37	12.19	57.02	30.79
三鷹市	42.26	12.19	69.70	18.11	青 ヶ 島 村	40.11	22.28	66.32	11.40
青梅市	43.39	13.77	66.54	19.69	小 笠 原 支 庁	39.36	17.43	71.40	11.18
府中市	41.49	13.94	68.68	17.38	小 笠 原 村	39.36	17.43	71.40	11.18
昭島市	42.93	13.26	67.67	19.07					
調布市	42.10	12.39	69.54	18.07					
町田市	42.83	13.91	66.46	19.62					
小金井市	42.34	12.17	69.66	18.17					
小平市	42.29	13.66	67.20	19.14					
日野市	42.61	13.39	67.16	19.45					
東村山市	43.62	13.39	65.37	21.24					
国分寺市	42.24	12.39	69.34	18.27					
国立市	42.44	12.81	69.10	18.10					

(注1)平均年齢の求め方は、各年齢の中央値(当年と翌年の中央値)ごとに人口を乗じた値を合計し、人口総数(年齢不詳を除く)で除す。
平均年齢(歳) = (年齢×人口)÷人口総数+0.5

(注2)年齢(3区分)別人口の構成比(%) = 各年齢区分別人口÷人口総数(年齢不詳を除く)×100

表4 地域、男女別平均年齢の推移（昭和63、平成5、10、15～20年）

各年1月1日現在（単位：歳）

地域・男女		昭和 63年	平成 5年	10年	15年	16年	17年	18年	19年	20年
総 数	総 数	36.38	38.51	40.51	41.95	42.22	42.48	42.74	42.97	43.19
	区 部	37.03	39.20	41.12	42.39	42.63	42.86	43.07	43.25	43.43
	市 部	34.81	36.94	39.17	40.95	41.28	41.61	41.96	42.30	42.61
	町村部	36.21	39.79	42.31	44.63	45.13	45.58	46.07	46.45	46.88
	郡部	35.05	38.64	40.96	43.44	43.95	44.42	44.91	45.29	45.75
	島部	40.62	42.73	44.91	46.99	47.50	47.91	48.43	48.83	49.20
男	総 数	35.15	37.23	39.20	40.60	40.87	41.13	41.39	41.62	41.84
	区 部	35.71	37.85	39.75	41.00	41.24	41.47	41.68	41.87	42.05
	市 部	33.83	35.83	38.00	39.70	40.03	40.36	40.70	41.02	41.32
	町村部	35.12	38.44	40.83	42.97	43.49	43.93	44.39	44.75	45.21
	郡部	34.09	37.40	39.55	41.80	42.35	42.81	43.27	43.64	44.12
	島部	39.12	41.13	43.31	45.31	45.80	46.20	46.68	47.02	47.43
女	総 数	37.62	39.80	41.83	43.29	43.56	43.82	44.07	44.31	44.52
	区 部	38.35	40.53	42.48	43.76	44.00	44.23	44.44	44.61	44.78
	市 部	35.82	38.09	40.36	42.20	42.55	42.86	43.22	43.57	43.89
	町村部	37.33	41.17	43.83	46.32	46.79	47.26	47.78	48.18	48.59
	郡部	36.05	39.92	42.41	45.12	45.57	46.07	46.58	46.96	47.41
	島部	42.14	44.36	46.53	48.70	49.22	49.65	50.24	50.69	51.04

3 年齢別人口

(1) 年齢別人口構成

平成20年1月1日現在の東京都の人口を、年齢構造を視覚的に表す人口ピラミッドで見ると、第1次ベビーブーム世代の58～60歳と、第2次ベビーブーム世代を含む34～40歳を中心とした二つの膨らみを持つ「ひょうたん型」に近い形となっている。

20年前の昭和63年と比べると、25歳以下の人口が男女ともに減少し、特に12歳から25歳までの減少が大きくなっている。逆に第1次ベビーブーム世代の老齢化に伴って、56歳以上の人口が大幅に増加しており、今後も少子高齢化の人口構造が一層進んでいくものと推測される。
(14頁 図6-1、15頁 図6-2)

(2) 5歳階級別人口

平成20年1月1日現在の東京都の人口を5歳階級別にみると、第2次ベビーブーム世代を含む35～39歳が1,116,616人(8.98%)で最も多く、次いで30～34歳の1,100,483人(8.85%)、25～29歳の968,546人(7.79%)、40～44歳の943,592人(7.59%)の順となっている。
(表5)

地域別構成

5歳階級別人口を地域別にみると、区部は30～34歳の777,503人、35～39歳の771,642人、25～29歳の688,917人、40～44歳の645,052人の順となっている。

市部は35～39歳の339,209人、30～34歳の317,547人、40～44歳の293,479人、55～59歳の291,393人の順となっている。

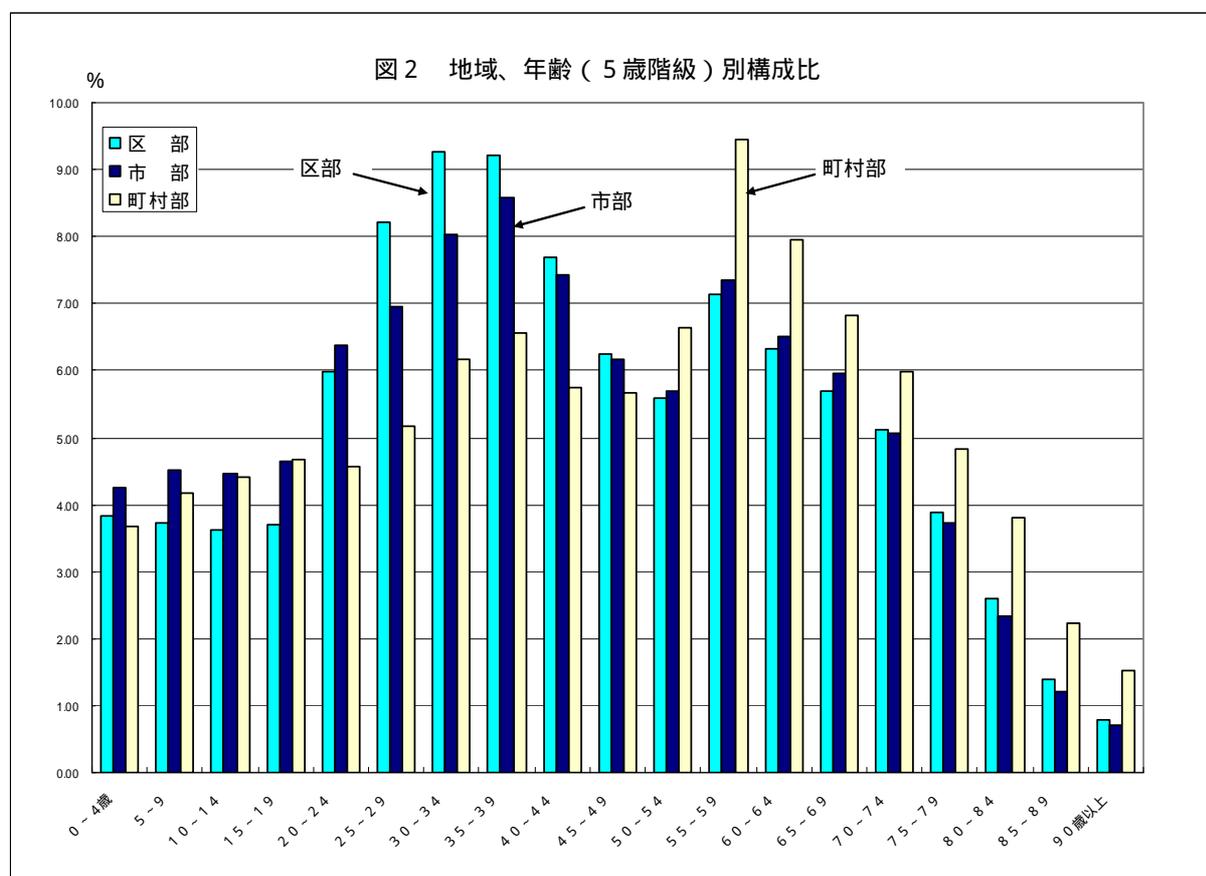
町村部は55～59歳の8,301人が最も多く、次いで60～64歳の6,983人、65～69歳の6,001人の順となっている。
(表5・図2)

表5 地域、年齢（5歳階級）別人口 平成20年1月1日

（単位：人、％）

年齢 (歳)	総数	区部	市部	町村部	構成比			
					総数	区部	市部	町村部
総数	12 433 235	8 387 659	3 957 693	87 883	100.00	100.00	100.00	100.00
0～4歳	492 122	320 451	168 443	3 228	3.96	3.82	4.26	3.67
5～9	495 904	313 459	178 781	3 664	3.99	3.74	4.52	4.17
10～14	483 602	302 827	176 902	3 873	3.89	3.61	4.47	4.41
15～19	498 476	310 784	183 588	4 104	4.01	3.71	4.64	4.67
20～24	758 115	501 625	252 486	4 004	6.10	5.98	6.38	4.56
25～29	968 546	688 917	275 090	4 539	7.79	8.21	6.95	5.16
30～34	1 100 483	777 503	317 547	5 433	8.85	9.27	8.02	6.18
35～39	1 116 616	771 642	339 209	5 765	8.98	9.20	8.57	6.56
40～44	943 592	645 052	293 479	5 061	7.59	7.69	7.42	5.76
45～49	772 422	523 648	243 788	4 986	6.21	6.24	6.16	5.67
50～54	700 577	469 259	225 491	5 827	5.63	5.59	5.70	6.63
55～59	897 426	597 732	291 393	8 301	7.22	7.13	7.36	9.45
60～64	795 252	530 265	258 004	6 983	6.40	6.32	6.52	7.95
65～69	720 826	478 509	236 316	6 001	5.80	5.70	5.97	6.83
70～74	635 319	429 503	200 555	5 261	5.11	5.12	5.07	5.99
75～79	477 049	325 282	147 527	4 240	3.84	3.88	3.73	4.82
80～84	314 382	218 380	92 666	3 336	2.53	2.60	2.34	3.80
85～89	166 302	116 419	47 934	1 949	1.34	1.39	1.21	2.22
90歳以上	96 217	66 399	28 490	1 328	0.77	0.79	0.72	1.51
年齢不詳者	7	3	4	-	0.00	0.00	0.00	-

（注） 構成比（％）＝各年齢別人口÷人口総数×100



性比

5歳階級別人口による性比をみると、40～44歳が110.3で最も高く、次いで25～29歳の108.6、45～49歳の108.3の順となっている。また、高齢になるにしたがって性比は低くなる傾向にあり、90歳以上では32.9と女性が男性の約3倍となっている。

20年前の昭和63年では性比が最も高いのは20～24歳で120.7、10年前の平成10年では30～34歳で114.4となっている。これをみると、この年齢階級(平成20年1月1日現在40～44歳)において特別に性比が高くなっていることがわかる。(表6)

表6 年齢(5歳階級)別、男女別人口及び性比の推移(昭和63、平成10、20年)

年 齢	各年1月1日現在 (単位:人)											
	昭和63年			平成10年			20年			性比(女=100人)		
	総 数	男	女	総 数	男	女	総 数	男	女	昭和63年	平成10年	20年
総 数	11 740 361	5 908 098	5 832 263	11 641 308	5 808 485	5 832 823	12 433 235	6 175 811	6 257 424	101.3	99.6	98.7
0～4	582 675	298 090	284 585	472 701	242 099	230 602	492 122	252 364	239 758	104.7	105.0	105.3
5～9	611 751	312 630	299 121	463 164	236 802	226 362	495 904	254 328	241 576	104.5	104.6	105.3
10～14	751 396	385 384	366 012	516 834	264 620	252 214	483 602	247 155	236 447	105.3	104.9	104.5
15～19	931 501	484 319	447 182	625 409	320 267	305 142	498 476	254 144	244 332	108.3	105.0	104.0
20～24	1 139 735	623 403	516 332	1 008 877	526 919	481 958	758 115	390 286	367 829	120.7	109.3	106.1
25～29	945 316	514 339	430 977	1 121 587	591 817	529 770	968 546	504 134	464 412	119.3	111.7	108.6
30～34	823 597	438 892	384 705	944 333	503 806	440 527	1 100 483	570 576	529 907	114.1	114.4	107.7
35～39	1 017 018	531 647	485 371	769 716	405 704	364 012	1 116 616	577 271	539 345	109.5	111.5	107.0
40～44	911 410	459 238	452 172	707 881	366 382	341 499	943 592	494 853	448 739	101.6	107.3	110.3
45～49	863 977	423 970	440 007	935 513	478 942	456 571	772 422	401 661	370 761	96.4	104.9	108.3
50～54	816 148	399 406	416 742	857 259	428 561	428 698	700 577	358 964	341 613	95.8	100.0	105.1
55～59	679 642	327 519	352 123	801 113	391 384	409 729	897 426	455 762	441 664	93.0	95.5	103.2
60～64	529 693	244 378	285 315	731 733	351 174	380 559	795 252	390 673	404 579	85.7	92.3	96.6
65～69	385 731	160 193	225 538	590 707	273 803	316 904	720 826	339 884	380 942	71.0	86.4	89.2
70～74	312 267	133 714	178 553	443 305	193 372	249 933	635 319	288 248	347 071	74.9	77.4	83.1
75～79	228 758	93 695	135 063	295 807	111 393	184 414	477 049	202 467	274 582	69.4	60.4	73.7
80～84	131 006	50 761	80 245	200 615	73 737	126 878	314 382	119 189	195 193	63.3	58.1	61.1
85～89	60 188	20 911	39 277	108 613	35 250	73 363	166 302	50 041	116 261	53.2	48.0	43.0
90歳以上	18 529	5 595	12 934	46 124	12 444	33 680	96 217	23 807	72 410	43.3	36.9	32.9

(注) 総数には年齢不詳者を含む。

4 年齢(3区分)別人口

(1) 年齢(3区分)別人口の推移

人口を年齢3区分別に見ると、平成20年の年少人口(0~14歳)は1,471,628人で、前年に比べ10,241人(0.70%)増加した。人口に占める割合は11.84%で、10年前の平成10年の12.48%に比べ0.64ポイント減少している。

平成20年の生産年齢人口(15~64歳)は8,551,505人で、前年に比べ5,945人(0.07%)増加し、昨年の減少から増加に転じた。人口に占める割合は68.78%となり、平成5年から減少が続いている。また、平成10年の73.05%に比べ4.27ポイントの減少となった。

平成20年の老年人口(65歳以上)は2,410,095人で、前年に比べ77,790人(3.34%)増加した。また、人口に占める割合は19.38%で、平成10年の14.48%に比べ、4.90ポイント増加している。年齢3区分のうち老年人口の増加は顕著である。

20年前の昭和63年の構成比と比べると、年少人口は4.73ポイント、生産年齢人口は4.97ポイントそれぞれ減少しており、老年人口は9.70ポイント増加した。このことをみても、年齢3区分のうち老年人口の増加は顕著である。

(表7-1、7-2、図3)

表7-1 年齢(3区分)別人口の推移(平成10~20年) 各年1月1日現在 (単位:人、%)

年次	年少人口(0~14歳)			生産年齢人口(15~64歳)			老年人口(65歳以上)		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成10年	1 452 699	16 074	1.09	8 503 421	18 004	0.21	1 685 171	72 746	4.51
11	1 440 642	12 057	0.83	8 496 695	6 726	0.08	1 757 581	72 410	4.30
12	1 430 154	10 488	0.73	8 497 436	741	0.01	1 822 748	65 167	3.71
13	1 427 229	2 925	0.20	8 491 001	6 435	0.08	1 904 789	82 041	4.50
14	1 427 848	619	0.04	8 500 167	9 166	0.11	1 979 325	74 536	3.91
15	1 432 509	4 661	0.33	8 507 104	6 937	0.08	2 056 589	77 264	3.90
16	1 435 292	2 783	0.19	8 523 570	16 466	0.19	2 115 728	59 139	2.88
17	1 445 820	10 528	0.73	8 539 039	15 469	0.18	2 176 162	60 434	2.86
18	1 451 916	6 096	0.42	8 545 819	6 780	0.08	2 249 279	73 117	3.36
19	1 461 387	9 471	0.65	8 545 560	259	0.00	2 332 305	83 026	3.69
20年	1 471 628	10 241	0.70	8 551 505	5 945	0.07	2 410 095	77 790	3.34

年次	(再掲)老年人口のうち70歳以上			(再掲)老年人口のうち75歳以上		
	人口	増減数	増減率	人口	増減数	増減率
平成10年	1 094 464	48 183	4.61	651 159	26 199	4.19
11	1 145 862	51 398	4.70	679 437	28 278	4.34
12	1 193 987	48 125	4.20	709 247	29 810	4.39
13	1 247 391	53 404	4.47	748 924	39 677	5.59
14	1 304 631	57 240	4.59	788 134	39 210	5.24
15	1 369 146	64 515	4.95	829 013	40 879	5.19
16	1 432 319	63 173	4.61	871 842	42 829	5.17
17	1 491 554	59 235	4.14	914 392	42 550	4.88
18	1 561 921	70 367	4.72	957 123	42 731	4.67
19	1 625 039	63 118	4.04	1 002 807	45 684	4.77
20年	1 689 269	64 230	3.95	1 053 950	51 143	5.10

(注1) 増減数(人) = 当該年の区分別人口 - 前年の区分別人口

(注2) 増減率(%) = (当該年の区分別人口 - 前年の区分別人口) ÷ 前年の区分別人口 × 100

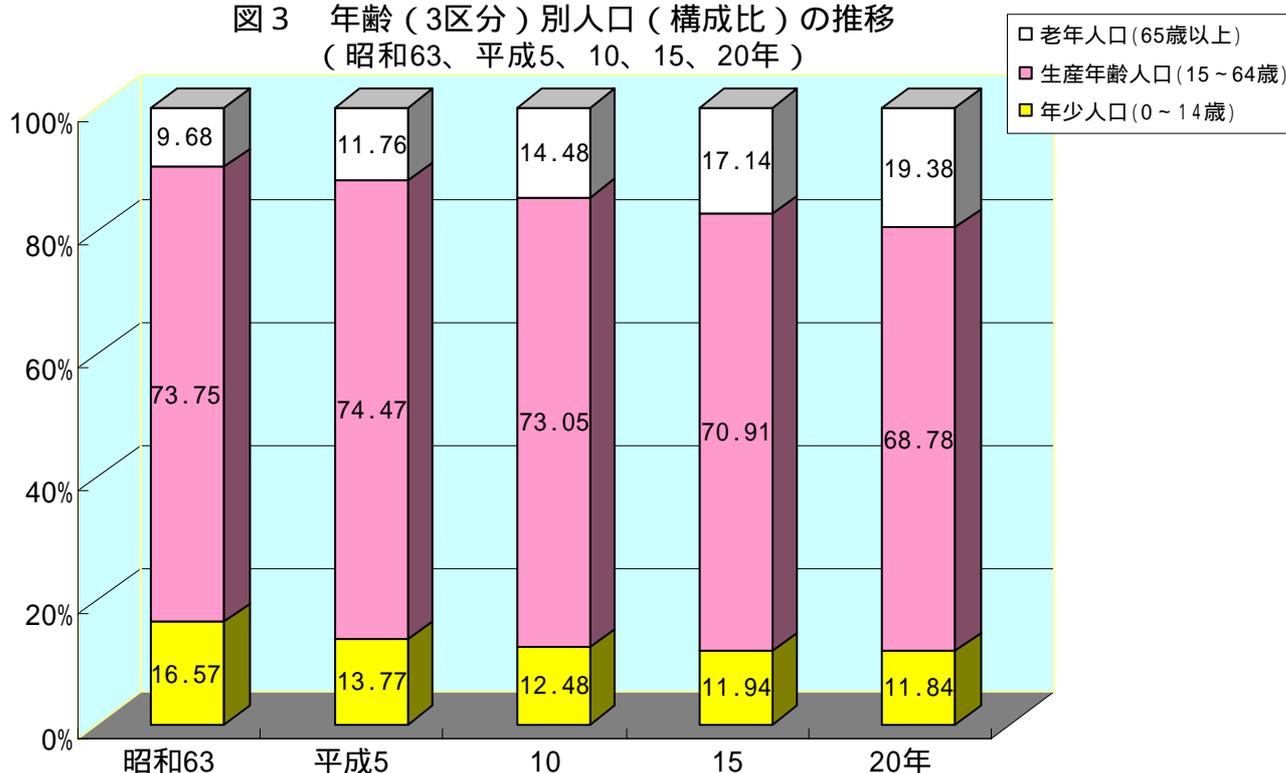
表7-2 年齢(3区分)別人口及び構成比の推移(平成10~20年) 各年1月1日現在 (単位:人、%)

年次	年少人口 (0~14歳)		生産年齢人口 (15~64歳)		老年人口 (65歳以上)		(再掲)老年人口のうち70歳以上		(再掲)老年人口のうち75歳以上	
	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比	人口	構成比
平成10年	1 452 699	12.48	8 503 421	73.05	1 685 171	14.48	1 094 464	9.40	651 159	5.59
11	1 440 642	12.32	8 496 695	72.65	1 757 581	15.03	1 145 862	9.80	679 437	5.81
12	1 430 154	12.17	8 497 436	72.32	1 822 748	15.51	1 193 987	10.16	709 247	6.04
13	1 427 229	12.07	8 491 001	71.82	1 904 789	16.11	1 247 391	10.55	748 924	6.33
14	1 427 848	11.99	8 500 167	71.39	1 979 325	16.62	1 304 631	10.96	788 134	6.62
15	1 432 509	11.94	8 507 104	70.91	2 056 589	17.14	1 369 146	11.41	829 013	6.91
16	1 435 292	11.89	8 523 570	70.59	2 115 728	17.52	1 432 319	11.86	871 842	7.22
17	1 445 820	11.89	8 539 039	70.22	2 176 162	17.89	1 491 554	12.27	914 392	7.52
18	1 451 916	11.86	8 545 819	69.78	2 249 279	18.37	1 561 921	12.75	957 123	7.82
19	1 461 387	11.84	8 545 560	69.26	2 332 305	18.90	1 625 039	13.17	1 002 807	8.13
20年	1 471 628	11.84	8 551 505	68.78	2 410 095	19.38	1 689 269	13.59	1 053 950	8.48

(注) 構成比(%) = 各区分別人口 ÷ 人口総数 × 100

なお、平成20年の老年人口のうちの70歳以上は、1,689,269人で、前年に比べ64,230人(3.95%)の増加となり、人口に占める割合は13.59%となった。また、75歳以上は1,053,950人で、前年に比べ51,143人(5.10%)の増加となり、人口に占める割合は8.48%となっている。(表7-1、表7-2、参考表第7表、図3)

図3 年齢(3区分)別人口(構成比)の推移
(昭和63、平成5、10、15、20年)



(2) 地域別比較

平成20年1月1日現在の年齢(3区分)別人口の構成比を地域別にみると、年少人口の割合は、市部の13.24%が最も高く、次いで町村部の12.25%、区部の11.17%となっている。

生産年齢人口の割合は、区部の69.35%が最も高く、次いで市部の67.72%、町村部の62.59%の順となっている。

老年人口の割合は、町村部の25.16%が最も高く、次いで区部の19.49%、市部の19.04%となっている。特に、島部の町村(28.86%)で高くなっている。(表8)

表8 地域別、年齢(3区分)別人口 平成20年1月1日現在 (単位:人、%)

地 域	総 数		年 少 人 口 (0~14歳)		生 産 年 齢 人 口 (15~64歳)		老 年 人 口 (65歳以上)	
	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比	人 口	構 成 比
総 数	12 433 235	100.00	1 471 628	11.84	8 551 505	68.78	2 410 095	19.38
区 部	8 387 659	100.00	936 737	11.17	5 816 427	69.35	1 634 492	19.49
市 部	3 957 693	100.00	524 126	13.24	2 680 075	67.72	753 488	19.04
町 村 部	87 883	100.00	10 765	12.25	55 003	62.59	22 115	25.16
郡 部	59 142	100.00	7 351	12.43	37 971	64.20	13 820	23.37
島 部	28 741	100.00	3 414	11.88	17 032	59.26	8 295	28.86

(注)総数には年齢不詳者を含む。

(3) 区市町村別比較

平成20年1月1日現在の年齢(3区分)別人口の構成比を区市町村別にみると、年少人口の割合は、青ヶ島村の22.28%が最も高く、都全体の11.84%に比べ10.44ポイント高くなっている。次いで小笠原村の17.43%、稲城市の15.73%となっている。

最も低いのは三宅村の6.35%で、次いで奥多摩町の7.36%、檜原村の7.45%となっている。

生産年齢人口の割合は、渋谷区の73.06%が最も高く、都全体の68.78%に比べ4.28ポイント高くなっている。次いで中央区の72.86%、港区の72.04%となっている。

最も低いのは檜原村の51.47%で、次いで奥多摩町の54.32%、新島村の55.94%の順となっている。

老年人口の割合は、檜原村の41.07%が最も高く、都全体の19.38%に比べ21.69ポイント高くなっている。次いで奥多摩町の38.32%、三宅村の36.42%となっている。

最も低いのは小笠原村の11.18%で、次いで青ヶ島村の11.40%、稲城市の15.41%となっている。(4頁表3)

(4) 全国との比較

平成20年1月1日現在の東京都と平成19年3月31日現在の全国の人口を比較してみると、東京都は約1243万人、全国は約1億2705万人となっている。

東京都が全国に占める割合は9.79%となっている。年齢(3区分)別構成比をみると、東京都の年少人口は11.84%で全国より1.86ポイント低く、生産年齢人口は68.78%で、全国より3.47ポイント高く、老年人口は19.38%で全国より1.62ポイント低くなっている。

(表9、図4-1、図4-2)

表9 年齢（3区分）別人口

（単位：人、％）

区分	都		全国	
	人口	構成比	人口	構成比
総数	12 433 235	100.00	127 053 471	100.00
年少人口	1 471 628	11.84	17 402 456	13.70
生産年齢人口	8 551 505	68.78	82 975 838	65.31
老年人口	2 410 095	19.38	26 675 163	21.00

*1:本調査(平成20年1月1日現在)。総数には年齢不詳を含む。

*2:総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」(平成19年3月31日現在)

全国人口の年齢別数値は国勢調査の結果数値(毎5年周期の10月1日)または各年3月31日の数値しか公表されていないため、直近の数値として、総務省自治行政局「住民基本台帳人口要覧」(平成19年3月31日現在)の数値を使用した。総数には年齢不詳を含む。

図4-1 都の構成比

(平成20年1月1日現在)

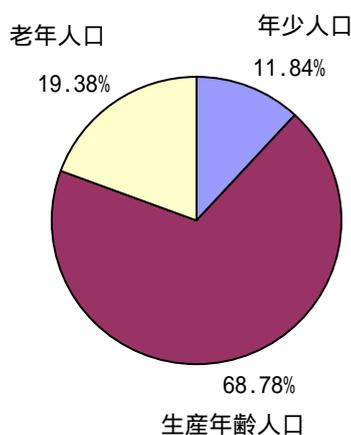
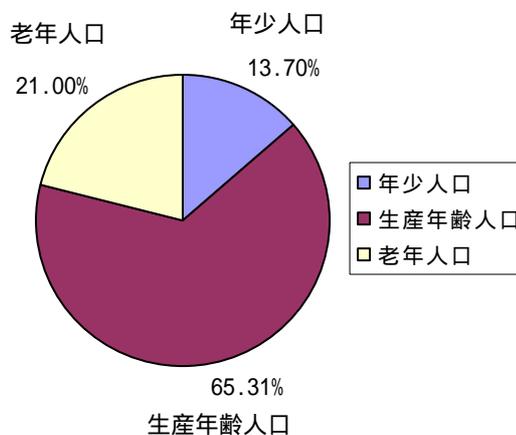


図4-2 全国の構成比

(平成19年3月31日現在)



5 年齢構造指数

平成20年の年少人口指数(年少人口の生産年齢人口に対する比率)は17.2で、前年とほぼ同じ値となった。一方、老年人口指数(老年人口の生産年齢人口に対する比率)は、平成20年は28.2となり前年に比べ0.9ポイント上昇した。昭和32年からの年齢構造指数の推移を見ると、平成7年まで老年人口指数が年少人口指数を下回っていたが、平成8年に逆転し、以後、老年人口指数の上昇が続いている。

従属人口指数は、前年より1.0ポイント上昇し45.4となった。また、老年化指数(老年人口の年少人口に対する比率)は、平成8年に100を超え、平成20年は163.8となった。昭和63年(20年前)の老年化指数58.4と比べるとほぼ3倍になった。(表10、図5、参考表第7表)

(注)年齢構造指数とは、次の指数の総称である。(人口学用語)

$$\text{年少人口指数} = (\text{年少人口}) \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = (\text{老年人口}) \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \{(\text{年少人口}) + (\text{老年人口})\} \div (\text{生産年齢人口}) \times 100$$

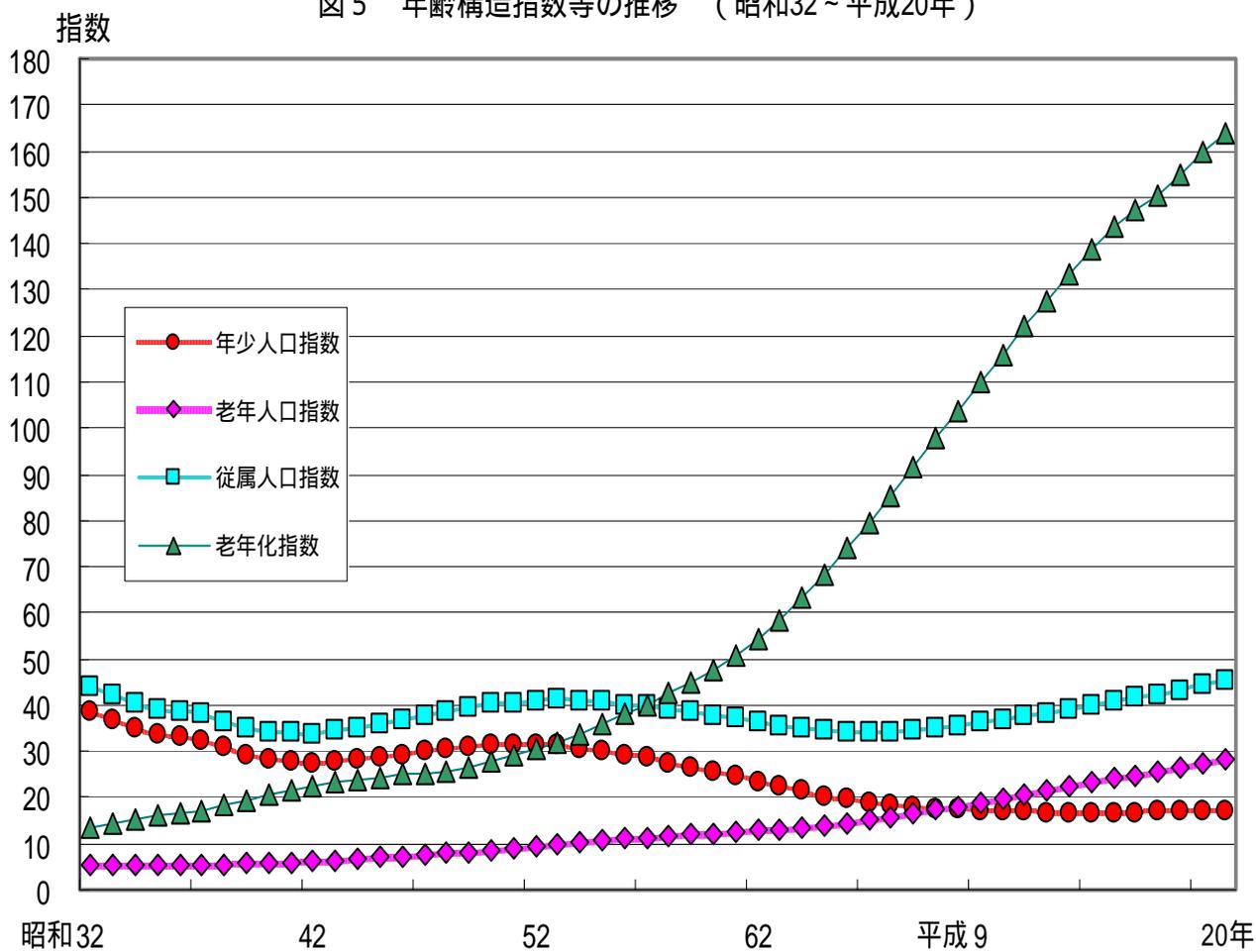
従属人口指数は、年少人口 + 老年人口の生産年齢人口に対する比率

$$\text{老年化指数} = (\text{老年人口}) \div (\text{年少人口}) \times 100$$

表10 年齢構造指数の推移（昭和63、平成5、10、15～20年） 各年1月1日現在

年齢構造指数	昭和63	平成5	10	15	16	17	18	19	20年
年少人口指数	22.5	18.5	17.1	16.8	16.8	16.9	17.0	17.1	17.2
老年人口指数	13.1	15.8	19.8	24.2	24.8	25.5	26.3	27.3	28.2
従属人口指数	35.6	34.3	36.9	41	41.7	42.4	43.3	44.4	45.4
老年化指数	58.4	85.4	116.0	143.6	147.4	150.5	154.9	159.6	163.8

図5 年齢構造指数等の推移（昭和32～平成20年）



6 世帯数

平成 20 年 1 月 1 日現在における東京都の住民基本台帳による世帯総数は 6,125,824 世帯で、前年に比べ 96,724 世帯（1.60%）増加した。

調査開始時である昭和 32 年の 2,021,303 世帯から一貫して増加し、平成 20 年には 3 倍を超える世帯数となった。1 世帯当たりの人員は 2.03 人となり、調査開始以来減少を続け、昭和 32 年の 4.09 人に比べほぼ半分の人員となっている。

地域別に前年と比べてみると、区部は 4,313,651 世帯で 71,562 世帯（1.69%）の増、市部は 1,773,075 世帯で 24,998 世帯（1.43%）の増、町村部は 39,098 世帯で 164 世帯（0.42%）の増とすべての地域で増加している。1 世帯当たりの人員は、町村部の 2.25 人が最も多く、次いで、市部 2.23 人、区部 1.94 人の順となっている。

区市町村別にみると、世田谷区が 429,629 世帯で最も多く、次いで、大田区 336,897 世帯、練馬区 324,194 世帯の順となっている。最も少ないのは青ヶ島村の 114 世帯で、次いで、御蔵島村 156 世帯、利島村 166 世帯の順となっている。

1 世帯当たりの人員は、あきる野市が 2.56 人で最も多く、次いで瑞穂町 2.54 人、日の出町 2.49 人となっている。最も少ないのは三宅村の 1.64 人で、次いで渋谷区 1.68 人、青ヶ島村 1.69 人、新宿区 1.69 人となっている。（表 11、表 12、統計表第 1 表、第 4 表、参考表第 8 表）

表 11 地域別世帯数の推移（平成 10～20 年） 各年 1 月 1 日現在

（単位：世帯、%）

年次	総数			区部			市部			町村部		
	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率	世帯数	増減数	増減率
平成 10	5 239 545	73 504	1.42	3 690 179	48 161	1.32	1 513 242	24 910	1.67	36 124	433	1.21
11	5 324 604	85 059	1.62	3 745 344	55 165	1.49	1 542 626	29 384	1.94	36 634	510	1.41
12	5 401 662	77 058	1.45	3 797 774	52 430	1.40	1 566 810	24 184	1.57	37 078	444	1.21
13	5 489 639	87 977	1.63	3 859 532	61 758	1.63	1 592 610	25 800	1.65	37 497	419	1.13
14	5 585 847	96 208	1.75	3 927 099	67 567	1.75	1 620 901	28 291	1.78	37 847	350	0.93
15	5 679 978	94 131	1.69	3 993 731	66 632	1.70	1 648 139	27 238	1.68	38 108	261	0.69
16	5 760 580	80 602	1.42	4 047 216	53 485	1.34	1 675 128	26 989	1.64	38 236	128	0.34
17	5 842 829	82 249	1.43	4 103 468	56 252	1.39	1 701 054	25 926	1.55	38 307	71	0.19
18	5 932 890	90 061	1.54	4 169 614	66 146	1.61	1 724 741	23 687	1.39	38 535	228	0.60
19	6 029 100	96 210	1.62	4 242 089	72 475	1.74	1 748 077	23 336	1.35	38 934	399	1.04
20 年	6 125 824	96 724	1.60	4 313 651	71 562	1.69	1 773 075	24 998	1.43	39 098	164	0.42

（注 1）増減数（世帯）＝当該年の世帯数－前年の世帯数

（注 2）増減率（%）＝（当該年の世帯数－前年の世帯数）÷前年の世帯数×100

表 12 地域別 1 世帯当り人員の推移（昭和 63、平成 5、10、15～20 年）各年 1 月 1 日現在（単位：人）

地域	昭和 63	平成 5	10	15	16	17	18	19	20 年
総数	2.46	2.34	2.22	2.11	2.10	2.08	2.06	2.05	2.03
区部	2.36	2.24	2.13	2.02	2.01	1.99	1.98	1.96	1.94
市部	2.73	2.56	2.44	2.32	2.30	2.29	2.27	2.25	2.23
町村部	2.99	2.78	2.57	2.40	2.37	2.35	2.31	2.28	2.25

図 6-1 東京都の人口の年齢構造(平成20年)

